

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月27日（日）午後7時00分～8時00分
場 所 有終東小学校 体育館
出席者 有終東小学校区住民 2名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

- ①教育長あいさつ
- ②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）
- ③質疑応答

参加者 資料の9ページ目の内容だが、登下校の負担軽減ということで、スクールバスの運行について、運行時間1時間以上にならないように経路を配慮するとなっている。小学校低学年に1時間というのは、目安として正しいのかどうかというところで、私も小学校2年生の子がいるが1時間バスに乗ってられるかと言われると、結構難しいと思う。

もう一つは、その下の段の保護者の負担軽減ということで、学用品の購入支援については、当然ながらしなければいけないと思うが、なぜ100%負担と50%負担で格差があるのか不思議に思った。

市教委 まず、登下校の負担軽減のところだが、1時間以上にならないようにということで、これは文科省が示す目安である。教育委員会としては、1時間という時間は、小学生ではなかなか耐えられる時間ではないと思っている。また今回の再編計画案を検討する中では、和泉地区からの通学には1時間ぐらい掛かると考えた。中学生は1時間程度であれば、何とか通学には耐えられると判断し再編をするという案になっているが、小学生ではこの距離を通学してくるのは難しいとの判断で、和泉小学校は残すという計画案としている。このように、小学生と中学生によって、分けて対応をさせていただいているところである。できる限り通学の負担は掛けられないような（案）としている。

保護者の負担軽減で、学用品等の購入支援の割合が違うということだが、統合年度2年生になる子は、前の学校で1年間しか体操服やズックを使っていない。そして2年生から新しい学校のものを使うということになると、前の学校の物を1年間しか使わないことになる。逆に、統合年度に6年生になる子は、新しい学校の体操服などを1年しか使わないことになる。どちらにしても1年間しか使わないということで、これは全額補助をさせてもらう。逆に3年生や4年生、5年生については、少なくとも2年以上は

元の学校、あるいは新しい学校の物を使うということで、10分の5の補助をする。この割合については、これまで再編をした森目小学校や蕨生小学校、そして乾側小学校でも踏襲した。

参加者 登下校の負担については分かった。費用負担については、過去の実績ということは分かる。それで特段、保護者の方からは、何もなかったということによろしいか。

市教委 負担割合については、すべてが全額補助ということであれば一番良いということではあるが、そういった意見よりもむしろ、「新しい学校の体操服やズックに合わせないといけないのか」「元の学校で着ていた体操服などをそのまま新しい学校で使えないか」などの意見は、かなりあったところである。それも今後、保護者の方と学校などと協議させていただいて、そのまま使っても良いということであれば、補助を使わずに使っていただくという方法もあると思う。

参加者 その意見というのは、結局保護者側としたら、買わなくて良いようにしてほしいということだと思う。しかし、子ども側からしたら同じ体操服や制服で生活したいと思うのが普通だと思う。それがストレスにならないための対策だと思う。それならば、同じ体操服を保護者として負担のないようにしてあげる方が、良いのではないかというのが私の思いである。保護者としたら、同じ制服にしてあげたいと思うし、子どもとしても、周りとは違うのはストレスになると思うので、それは何年着るという考えは排除した方が良いのではないかという、一つ意見として取り入れてほしいと思っている。

市教委 そのようなご意見も参考に、今後議論させていただきたいと思う。

動かなければならない学校の保護者の方や子どもたちも、いろんな戸惑いや不安も抱えていると思っている。そういう視点を大きい学校の保護者の方が発言していただけるのは、心配している保護者の方にとっては本当に嬉しいことである。十分に検討させていただいて、話題にしながらいきたいと思う。

参加者 今回の取り組みは、非常に親切で丁寧であると思う。賛同を得ることができ次第、もっとスピードアップして、前向きに進めていただいていた方が良いのではないかと、そのような気がしている。

それからもう一つ、先ほど教育長から話があった件で、50年前の再編の当事者で経験者ということだが、その時の小さい学校から大きな学校へ行かれた教育長自身のその時のお気持ちを記憶のある範囲で結構なので、少しお聞かせいただくとありがたいと思う。私は受け入れる側で、記憶は薄いですが、非常にわくわく感で迎えたというような記憶が残っている。

市教委

二つお話があったと思うが、まず二つ目の私のその当時の思いを、少し話させていただきたいと思う。私が小山中学校の2年生に上がった時に開成中学校ができて、開成中学校の小山教場として中学2年生を過ごし、中学3年生の時に開成中学校の有終教場へ行かせていただいた。その時小山からは20人で行った。その当時の有終教場の3年生は9クラスあった。その当時の受入れてくれた彼らに改めて感謝をしたいと思っている。開成中学校にも陽明中学校にも教員になってから勤務したが、この伝統と言うか大きい集団の包容力と言うか、外部から入ってくる者、あるいは内部にいても、さまざまな個性を基本的に認めていこうという土壌があると思って、今更ながらに大変ありがたかったと思っている。具体的に言うと、あの時に小山からは20人で行ったし、乾側中学校の子も何名か行ったと思う。その時に有終教場の3年生は、全員クラス替えをしてくれた。その時に「あなたたちが入ってきたからクラス替えしなきゃいけなかった」ということも言われたが、「でもそのおかげで楽しいクラスになった」など、とても前向きに受け入れてくれたと思っている。それから、20人で行ったが、ずっと小山の子たちと一緒にいたかというところではなく、すぐに新しい友達ができ、1年過ごして高校進学となり、「本当に早かった」、「もう1年このクラスで一緒にやりたい」と思った。3年3組。いまだに覚えている。

それから一つ目のスピードアップの話であるが、学校の再編だけではなく、慎重に丁寧に着実にということ、私は常にどのことを考える時にも、そのような基本方針を話している。この3年間というのは、やはり「慎重に」「丁寧に」の二つに重点を置いた。次は「着実に」という思いで、しっかりと前に進めていきたいと思っている。そしてこの2年後の中学校、4年後の小学校というのも、先ほど担当から資料4ページでその理由を説明したが、やはり乾側小学校の件を一つ取っても、学校の大小はあっても、1対1の学校対学校の再編であるし、地区対地区の再編であるという点で、考えれば考えるほど本当に大きくて深くて繊細な問題である。そのため、その辺りはスピード感を持って着実にはいくが、拙速にならないようにしたい。やはり児童生徒同士の交流であったり、学校間の調整であったり、保護者さん同士の意見交換もしっかり行い、スタートする時には、良い形でスタートしたいと思っている。

参加者

先ほどの続きだが、50年前の再編の時に、20人の内1人が「怖くて怖くてしょうがなかった」と言っていた。再編してからの人間関係や生徒同士のそういった事は、全然問題はなかったか。

市教委

私が他の19人の子たちのことをすべて知っているわけではないが、や

はり再編の時に有終中学校に対する我々の憧れもあったし、不安もあった。行く前はそんな話もしたと思う。ただ、行ってみたら先ほど申し上げたように、やわらかく受け入れてくれたなと思っている。自分とよく気の合う子たちが何人もいたり、また他の小山の子とうまくやってくれる子もたくさんいたりしたというようなことだったと思う。

保護者の方に少し印象をお聞きしたいが、有終東小学校はこの2年くらいで大きく変わってきている。それは、大野市全部がそうであるが、自分から動き出せる子どもたちを育てようとしている。そこで一番着目したのが、2年前の夏休みの宿題の出し方である。今までは夏休みの友と、「これとこれをして」というような色合いが強かったが、この1、2年で方向を変えて、「こんなこともできる」「あんなこともできる」という例示はするが、夏休みに自分の本当にやりたいことに挑戦してみようということを1年生の時から取り組み始めている。先週、有終東小学校の学校訪問と言って教育委員会の職員が1日かけて学校で授業を見ていた。その時に1年生も2年生も、自主学習ノートで「今日この子が頑張るととても良い感じなので、みんなで見よう」と、教室の前に二つ三つ展示してあった。次の日は、またそれが変わると思う。保護者としてどんな印象を今の学校にお持ちかなと思っているがいかがか。

参加者

親の立場からして、私も子どもが1年生だった時の夏の宿題とかそういったことでの思いしか言えないが、正直子どもが提示された宿題に対して、初見はすごく驚いた。やはり、小学校入ってまだ間もない子どもに対して、自分で考えてみなさいという課題は、結構酷なものがあるなっていうのが正直な思いである。そこに対して、親からのアドバイスや親から与える内容が、それもそれで正しいのかどうかということも、親としてはすごく不安なところもある。結果もどういった結果になったのか、分かっていないところがあるので、そういった不安と、子どもに対しても結構レベルの高い内容だったのかなと。それが最終的に成長に結び付いてるのであれば、良かったと思うのだが。そこは結果的にどうなっているのかは分からない。なかなか刺激はあったと思う。

市教委

今度夏休みのことも少し意識しながら、学校とも話してほしいと思うが、今申し上げたように、夏休みに自分の興味関心により自由研究をしようというようなことを投げ掛けても、耐えられるような子どもたちにしなければいけない。それで担任や校長と話をしてみると、日々の宿題の出し方や勉強の仕方一つ一つを積み上げていって、夏休みの大きい課題があるので、その辺りをしっかりつないでいくということをととても意識しているとのことだった。2年生になったらどう変わったかと、また3年生4年生5

年生6年生の自由研究も夏休みが終わると、展示しているので学年が進むとこういう風になるのかということも、ぜひ見ていただけるとありがたい。進む方向は決して間違っていない。少しショックなところもあるかもしれないが、これからはそうでないと、しっかり社会に対応していけないのではないかという思いは強くある。応援をしてほしい。

この再編計画の（案）の結論というのは、再編なので何校にするか、いつするかということは当然あるが、これを見ていただいても分かるように、大野の教育をどうしようかという観点から入っている。大野の教育はどこを目指すのかということから入っているので、この再編の取り組みを通して、大野の学校教育はこっちを目指してこういう風に今変わってきているのかと、そんな大きい視点で見ていただきたい。そういう中では保護者の方ともたくさん話をしながら、また地域の方とも話しながら進めていかなければいけないと思っている。よろしく願いしたい。

閉会のあいさつ（事務局長）